



2024 日本のうたごえ祭典 in 佐賀 実行委員会ニュース

発行 2024 日本のうたごえ祭典 in 佐賀実行委員会
発行日 2024年3月29日 第2号

〒849-0923 佐賀県佐賀市日の出1丁目12-17
Fax 050-3383-3061 E-mail 2024nichiutasaga@gmail.com
<https://sites.google.com/view/2024sagauta-festival/> ホーム



♪いのちをうたおう

女声合唱の練習風景

家族でうたおう「が合言葉です。次の練習は60人を目指して〇〇！

午後から場所を移動して「女声合唱」の練習。「いのちをうたおう」は新しく編曲して頂き、佐賀が初演となります。「たいせつなこと」とともに女声な

わくわく・どきどき 練習開始！！

日うた佐賀祭典で歌う曲の練習が始まりました。

3月24日と3月30日の2日間、午前・午後①・午後②の夜の4つの時間帯で練習を組み8ステージの練習をするという計画です。

スタートは「ぞうれっしやがやってきた」。あいにくの雨でしかも桜マラソンの真っ只中でしたが30人が集まり、久しぶりに「サーカスのうた」と「動物園へようこそ」を歌いました。大人も自然に体が動き、3人の子ども達はリズムを取りながら「ノリノリ」の様子でした。「ぞうれっしやが走って75周年」「750



全日本年金者組合 九州・沖縄ブロック支部交流会

らではの響きと歌詞が胸をうちます。このステージも次回60人を目指します。

次は、「荒木栄」の3曲の練習。「地底のうた」の男声は力強く、アリーナで300人の「地底のうた」がきけると思うと心が震えます。目標の「700名の歌い手を集める」というのは、生半可なことではありません。一回一回の練習、一人一人を大事にして、一人が一人を誘う、この原点を忘れずに頑張っていきたいと思えます。

(企画委員長 八谷玲子)



集まった賛同金の募金袋

開催地賛同金達成へラストスパート！！

団体の要求と重ねて！

「宝の海よ」「Love&Peace 未来の子どもたちへ」2曲を

「開催地賛同金300万円」を目標に、2023年末100万円、全国実行委員会までに200万円の中間目標を達成し、チケット販売までに300万円という最終目標の追い込みにかかっています。祭典実行委員会参加団体の全日本年金者組合佐賀県本部から、「九州・沖縄ブロック支部交流会（3月18日、19日）」で、日うた祭典in佐賀の紹介をして仲間に協力をお願いしたい」という嬉しい申し出があり、さっそく県の執行委員会で祭典成功へのお願いと歌の練習の時間を取っても

歌い、九州のみなさんも祭典と一緒に歌いましょうと呼びかけ、賛同金の協力もお願いしてもらったことになりました。後日、佐賀県本部委員長より「夜の交流会」で歌の紹介に他県の仲間が伴奏をしていただいた。賛同金を次々に持ってこられた4万3千円集まった。佐賀に絶対行くと伝えてくださった方がい

「と、本当に嬉しい報告がありました。」「要求と楽しい行事・活動から仲間増やし。うたごえも運動になって取り祭典に九州一丸となって取り組みましょう」という力強いメッセージに、「賛同金300万円達成！700人の歌い手を！」の取り組みのエネルギーをもらいました。

(組織委員長 末美佐子)



賛同金様式



日うた祭典 WEB サイト

県内六箇所の地域実行委員会動き出す

鹿島・嬉野、唐津、神埼吉野ヶ里、鳥栖・基山、佐賀市、小城・多久（おぎたく）の6つの地域実行委員会が広がりをみせてきました。神埼では、

指導者のS先生も地域実行委員会に参加して、「一緒に歌おうよ！」と自ら呼びかけてくださっています。これまで、

専門的な指導者が実行委員会に参加される事はありませんでした。しかし「地域実行委員会」だと、「私も神埼地域の人間よ！」と言って参加していただいています。佐賀市



佐賀市地域実行委員会の様子

も同じような事が起き、ピアニストのH先生が佐賀市実行委員会に参加してくださっています。

700人の歌い手、300万の賛同金を達成するため、さらに身近な地域の人たちに声をかけていこうと思っています。

佐賀市と神埼では実行委員長も決まった事で、地域内の目標も決まり、動き出しています。この間「うたごえ新聞」も急速に伸びて、昨年度目標の200部達成に残り8部になりました。目標達成のカウントダウンが始まっています。

今こそ「うたごえ喫茶」「歌う会」を各地域で開いて多くの人たちにこの祭典がある事、そして祭典の魅力を伝えていきたいと思っています！3月28日の神埼地域実行委員会では、鳥栖在住のMさんも参加され、他の地域実行委員会の活動に興味を持って来ていただきました。《地域実行委員会交流会》などを開くと各地域の活動もわかり活性化につながるのではないかと考えています。

(運営委員長 松田さえ子)

佐賀に集まるう！ 「ふるさと」の空・海・大地を守る」

ステージで歌おう！

いわゆる「佐賀の三つ」の「たかい」のうち、現在大きな動きを見せているのが、オスプレイ等配備反対闘争です。

①防衛省は2023年6月以来、佐賀空港西側に陸上自衛隊佐賀駐屯地の工事を強行、さらに2024年1月から、空港南西部の県有地に雨水一時貯留池の造成工事をおこなっています。②2つの工事面積を合わせると、佐賀県条例の規定35haをはるかに超えているのに、目的が違うなどとして環境アセスメントを実施しようと思わず、県当局もこれを容認しています。③しかも一時貯留池で掘削した土砂を駐屯地の盛土に使用し、その土砂の費用など約9億円を防衛省に無償供与しており、これに対して県民有志が県の対応の不当性・違法性を訴えて、現在、住民監査請求を行っています。④駐屯地建設の差し止めを求めた仮処分では不当決定が出されましたが、これに対して即時抗告、本裁判とたたかいを続けていくことになっています。

佐賀のうたごえは、3月31日に開かれるオスプレイ反対

集会に参加し、「宝の海よ」「Stop Osprey」の2曲を歌って、このたたかいに連帯します。

「佐賀の三つ」のたたかい

酒蔵ツーリズムで演奏 鹿島市

3月23日「酒蔵ツーリズム」のメイン会場「肥前浜宿 花と酒まつり」で日本のうたごえ祭典を宣伝すべく屋外ステージイベントに参加しました。



「日本のうたごえ祭典」をアピールする絶好のチャンスだと企画しました。佐賀アリーナで披露する地元「ほとめき会」の踊りの後に「宝の海よ」「平和の旅へ」「長崎本線いつまでも」の3曲を解説を入れて演奏しました。

「『うたごえは平和の力』『歌は生きる力』を合言葉に、雨にも風にも年齢にも負けず、平和と幸せをお届けに参りました」と挨拶をし、最後は「日本のうたごえ祭典」がこの佐賀県で開催される事。「8千人収容のアリーナで皆さんも一緒に歌いませんか？」と呼びかけました。



当日は、あいにくの小雨で屋外でしたが、ステージも観客席もテントに守られ、観客も熱心に聴いてくださっていました。

(鹿島うたごえ合唱団 染川浩美)